

女性技術者からひとこと



㈱ダイヤコンサルタント 技術研究所 鳴海 あき

建設コンサルタントがどのような仕事をしているかなんて、ちっとも知らないまま入社して6年目。普通なら5、6年もすると、そろそろ独り立ちして仕事ができるようになるところですが、自分は……確かに現場経験は男性より劣るし、技術は……何かのひとつ覚えみたいに見よう見真似状態ですが、口だけは右に並ぶ者がいないと言われるくらいに達者になりました（えっ、それだけ？）。

と、まあ大胆なことを書いてはいますが、このようになるまではそれなりに失敗もしましたし、上司にも怒られましたし、時には反撃もしました。こんな私に原稿依頼をするなんてとんでもないかもしれません。でも差し支えない程度にありのままを書いてみましょうかと。

入社した当初は主として土質調査からはじめました。学生時代に軟弱地盤とか土質試験とかボーリングとか全く縁のなかった私は、見るもの聞くもの全てに???の世界で土質アレルギーになりそうでした。

それでもいろいろな人にくっついて現場に出ているうちに、現場って面白いし性に合ってるなと思いはじめ、早く仕事を覚え

たいがために、ことあるごとに現場に出してほしいとお願いしまくりました。

がしかし、会社のなかでも女性が現場代理人となって一人で現場に出ることがなかったせい、しばらくは機会がまわってきませんでした。

1年が過ぎたころ地すべりに興味をもちはじめました。地すべり伸縮計の設置とか、安定計算の方法、踏査のときにどういう点に注意するかなど、主任技術者のあとを腰巾着のようにつきまとい教えてもらいました。実は理学部地球科学科出身なので、踏査もできるし、地質もわかるはず……ですが、なんとかして現場にいきたい私は、大嘘をついてたのです。ま、ぜんぜんわからない訳ではなく、講義を受けてたとか、実習でほんの2、3日フィールドを歩いた程度なんですけどね。にもかかわらず、初めて踏査にいったときはクリノメーターの使い方を質問してしまいました。昔教わったはずなのに覚えていない……。本当は地球化学で分析をやってたんです。それも鉱物じゃなくて水とかの。

若気のいたりというか、すごい恥ずかしいことをしてたんですねえ。その恥ずかしい

さというか無知さは留まるどころを知らず、初めて一人で出た現場では見事に掘り直しとなってしまいました。どうして掘り直しになったかという、泥岩のコアを無水でとっちゃったんですね、ボーリング屋さんが。ボーリングのボの字も知らなかった私は、全てを任せてしまったんです。コアの落下を恐れて無水であげてしまったのです。

初めての現場、知らない土地の山の中、地主さんへの挨拶、役所への連絡、他人に混じって一人で宿泊。あれほどでたがっていたのに精神的にまいってしまい、正直早く帰りたいかった。

あれから5年、良くも悪くも何でもやってみようと思った私。土質アレルギーになりそうだったけど、地すべりの仕事をするうちに土質の知識は不可欠だと悟り、嫌がらずにできるようになったし（やってみると結構面白かったりする）、クリノメーターの使い方はもちろんバッチリ？です。

現場に出ても、最初はどうか戸惑っていたおじ様達も今ではすっかり仲良しになり、いろんな経験談、苦勞話、現場の知恵なんかを授かったり、会社の偉い人達の若かりし頃のお話なんかも聞いちゃったりで結構得することあり、です。

今はバリバリ仕事をしている方々も昔はいろいろ失敗したり、変なことしてたんだなあと思うとちょっとほっとし、もしかし

て自分はまだましかもしれない、と自信（過剰）をもったりして。

こういうことばかり書いていると、まるで私は現場で遊んでばかりいるようですが（違うの？）、することはしてもらいますし、役所や地主への対応もきちんとしておりますので御心配なく（ただし、ときどき忘れることもある）。

まだまだ作業服を着てヘルメットを被り、長靴を履いた女性というのがめずらしいせいか、時折、不安そうな担当官や、あからさまに態度を変えるボーリング屋さんも見受けられます。でも、そんなことには慣れてしまい、今じゃ全く気にしません。気にしてもしょうがないし、むしろ現場に出るほうが生き生きしてると言われています。

その分周囲の人はいろいろ気を遣っているんだろうなあ、と感謝しながら。

そうですねえ、自分がそれなりに仕事ができるようになるには、周りにいる人たちがいろいろ心配し、面倒をみてくれたからです。

忙しいなか「えっ、こんなことも知らないの。」というような質問も嫌がらずに教えてくれたり、仕事がかまくらで悩んでいるときに相談にのり、的確なアドバイスをくださる方々がいるからこそ今の自分があるんですねえ。

最近、女性初の〇〇〇、ということで紹介される職業や分野が増えています。

別な分野であってうれしいことだし、
もっといろんな分野の門戸が開放されるこ
とを望みます。ただ、そこから女性という
単語がとれて当たり前になってほしいと思
うのは欲でしょうか。この分野でいうなら
ば女性技術者という肩書き(?)が早くと
れるといいなと思います。女性技術者とい
う職業は本来なら存在しないと思いきせん
か。

この原稿が世の中に出まわった後に「お
宅の会社にはとんでもない社員がいます
ねぇ。」と言われたらどうしましょう。

(^◇^)/~~

